

# アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド

(ユーロコース)(米ドルコース)(豪ドルコース)(ブラジルリアルコース)(資源国通貨コース)(メキシコペソコース)(トルコリラコース)(円コース)

## ～ 2015年3月の決算における分配金と今後の見通しについて～

平素より“アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド”をご愛顧賜りまして、大変ありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは2015年3月の決算におきまして、5本のコースについて分配金額の変更を行いましたことをご報告申し上げます。

【分配金引き上げ】米ドルコース

【分配金引き下げ】豪ドルコース、ブラジルリアルコース、資源国通貨コース、トルコリラコース

当期の分配金(1万口当たり税引前)につきましては、下段の表をご覧ください。

今回の見直しは、基準価額の水準や分配対象額の状況などを総合的に勘案した結果によるものです。今後ともファンドの運用にあたっては、パフォーマンスの向上を目指してまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### < 目次 >

Q1 なぜ分配金額の変更を行ったのですか？	2ページ
Q2 一部のコースで分配金を引き下げたのはなぜですか？	7ページ
Q3 米ドルコースの分配金を引き上げたのはなぜですか？	9ページ
Q4 今後も分配金の見直しが行われることはありますか？	10ページ
Q5 今後の市場見通しを教えてください。	10ページ

コース名	2015年3月9日 基準価額	2015年3月9日 基準価額(税引前 分配金再投資)	(ご参考) 前期分配金額*	当期分配金額*	前期との差
ユーロコース	9,337円	14,261円	80円	80円	変更なし
米ドルコース	11,876円	12,443円	40円	60円	20円引き上げ
豪ドルコース	9,025円	17,084円	230円	200円	30円引き下げ
ブラジルリアルコース	4,826円	13,180円	120円	100円	20円引き下げ
資源国通貨コース	6,528円	14,185円	115円	100円	15円引き下げ
メキシコペソコース	10,179円	11,038円	70円	70円	変更なし
トルコリラコース	8,057円	17,368円	250円	200円	50円引き下げ
円コース	9,536円	12,347円	50円	50円	変更なし

\*1万口当たり、税引前

## Q1 一部のコースで分配金を引き下げたのはなぜですか？

A1 基準価額の水準や分配対象額の減少、市況動向などを勘案した結果、分配金を引き下げ、その差額をファンドの純資産に留保することで信託財産の成長を目指すためです。

基準価額の水準に照らした分配金額水準を勘案し、分配金額の変更を行いました。

この度、豪ドルコースは230円から200円へ、ブラジルリアルコースは120円から100円へ、資源国通貨コースは115円から100円へ、トルコリラコースは250円から200円へ、それぞれ分配金を引き下げました。引き下げた分配金の差額はファンドの純資産に留保することになりますので、引き下げを行わなかった場合に比べ、分配落ち後の基準価額は高くなります。

ファンドの分配金額は分配方針に基づき 基準価額の水準や 分配対象額の状態等を勘案して決定します。

基準価額が10,000円の時に100円の分配金を支払うと、 $100円/10,000円 = 1\%$ となり、ファンド総額の1%分が分配金額となります。

基準価額が5,000円の時に同じく100円の分配金を支払うと、 $100円/5,000円 = 2\%$ となり、ファンド総額の2%分が分配金額となります。

このように、基準価額の水準によってファンド総額に対する分配金の支払い比率が変化することから、分配金額を決定する上で基準価額の水準は大変重要なポイントになります。

また、分配対象額の状態も考慮に入れる必要があります。各期の分配金額につきましては、期中の収益(欧州ハイールド債券の値上がり益ならびに利子収入や選択通貨の対円での上昇ならびに為替取引によるプレミアム(コスト)等)に加えて、過去の収益の一部を分配金に充ててきており、足元では豪ドルコース、ブラジルリアルコース、資源国通貨コース、トルコリラコースの分配対象額は減少傾向にあります。

この点をふまえ、それぞれ基準価額、分配対象額ともに減少しているため、分配金の引き下げを行いました。

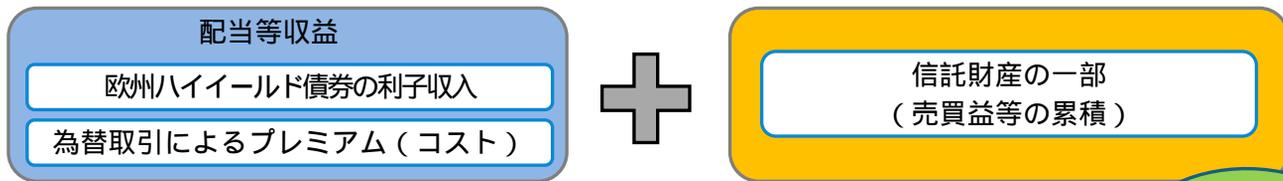
今後の安定的な分配の継続と信託財産の成長のために分配金を引き下げる必要があると判断するに至った次第です。

米ドルコースの分配金引き上げについてはP9Q3をご参照ください。

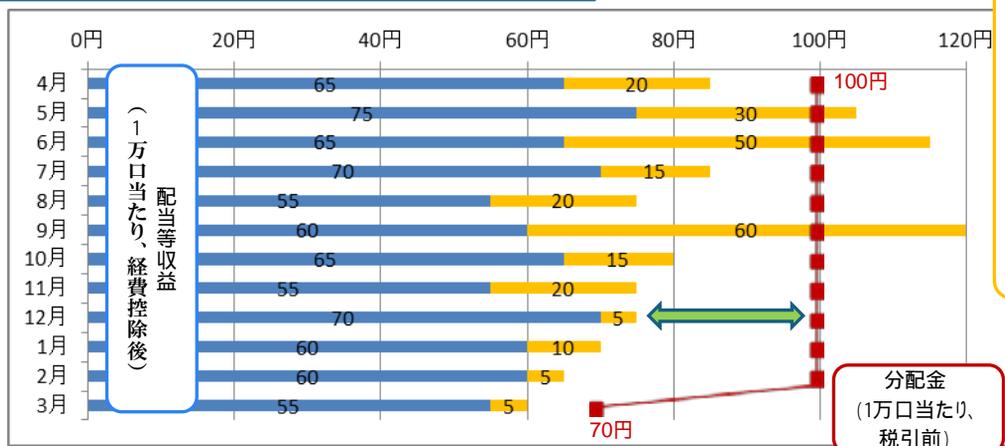
～ご参考:分配金について～

期中の配当等収益と売買益を合算した額が支払い分配金額を下回っている場合は、信託財産の一部を使い分配金を支払います。分配金を引き下げることで、信託財産の一部からの持ち出し分が少なくなり、信託財産の成長を目指します。

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド:分配金のイメージ図



配当等収益と分配金のイメージ図



(1万口当たり、経費控除後)  
信託財産の一部  
(売買益等の累積)

信託財産の一部からの持ち出し分が少なくなります。

毎月分配金1000円をお支払していたファンドが分配金を70円に引き下げた場合

～アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド基準価額と分配対象額の推移～

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(米ドルコース)

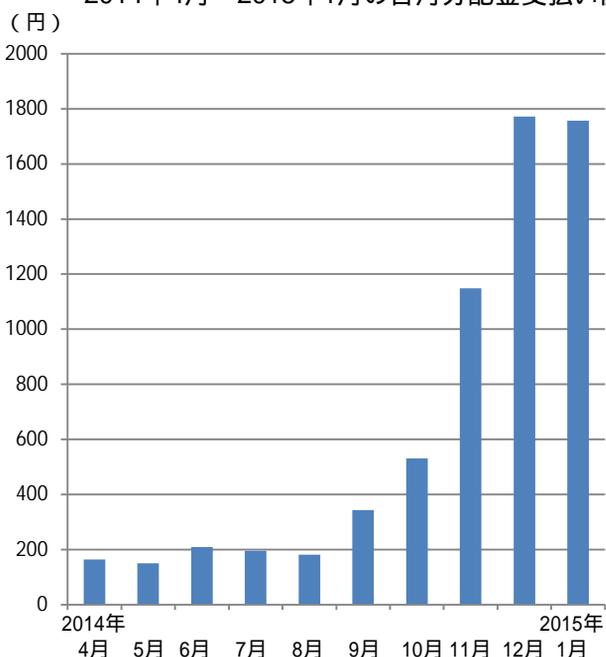
< 基準価額の推移 >

2014年1月14日(設定日)～2015年1月末



< 分配対象額(1万口当たり、分配金支払い後)の推移 >

2014年4月～2015年1月の各月分配金支払い後



・基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。基準価額は信託報酬控除後です。  
・上記グラフは過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

・初回分配金支払い月(2014年4月)からの10カ月分を記載しています。

## アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(豪ドルコース)

### < 基準価額の推移 >

2011年10月27日(設定日)～2015年1月末

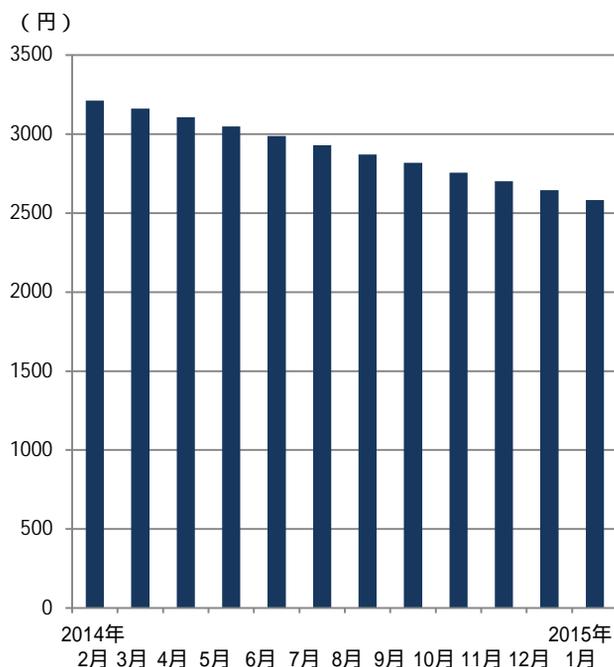


・基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと  
して計算しています。基準価額は信託報酬控除後です。

・上記グラフは過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

### < 分配対象額(1万口当たり、分配金支払い後)の推移 >

2014年2月～2015年1月の各月分配金支払い後



・直近12カ月分を記載しています。

## アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(ブラジルリアルコース)

### < 基準価額の推移 >

2011年1月31日(設定日)～2015年1月末

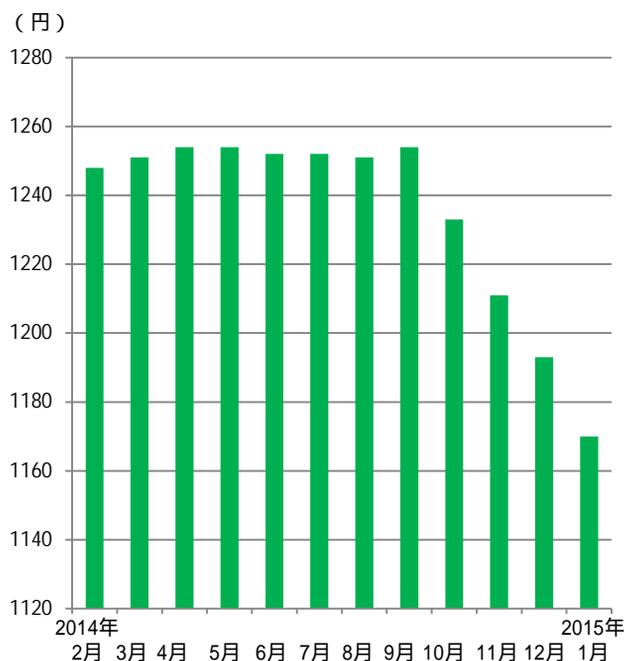


・基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと  
して計算しています。基準価額は信託報酬控除後です。

・上記グラフは過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

### < 分配対象額(1万口当たり、分配金支払い後)の推移 >

2014年2月～2015年1月の各月分配金支払い後

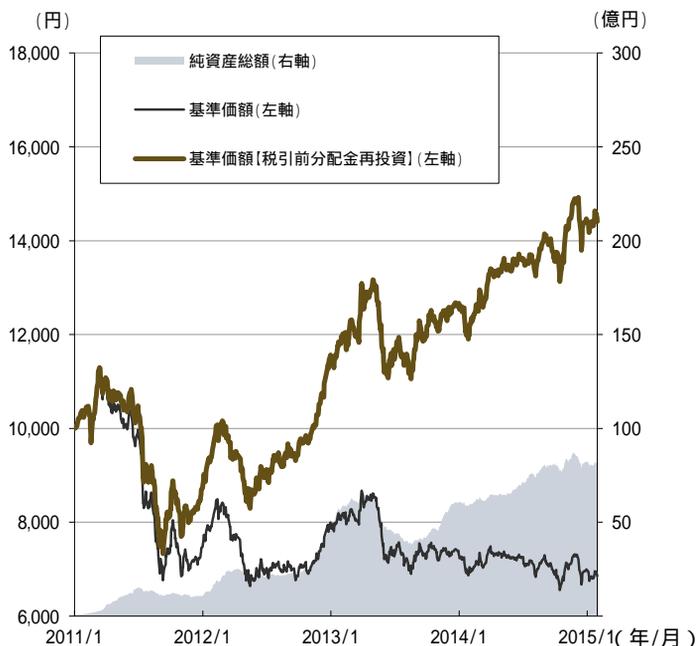


・直近12カ月分を記載しています。

## アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(資源国通貨コース)

### < 基準価額の推移 >

2011年1月31日(設定日)～2015年1月末

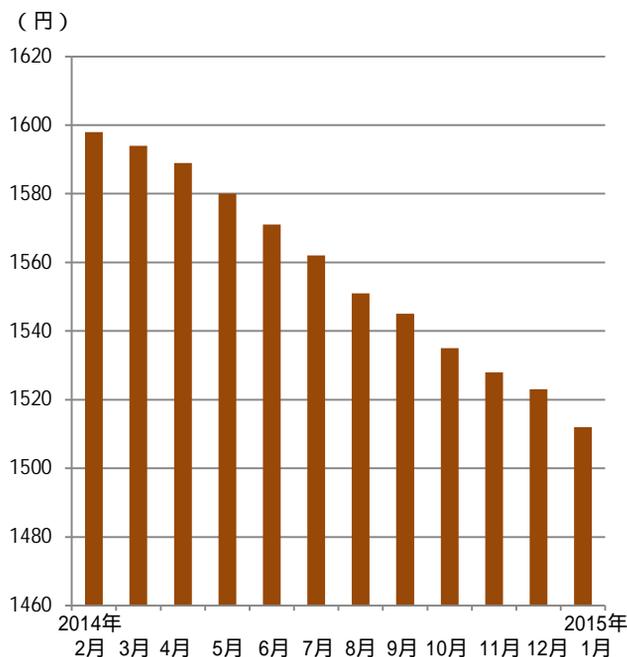


・基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと  
して計算しています。基準価額は信託報酬控除後です。

・上記グラフは過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

### < 分配対象額(1万口当たり、分配金支払い後)の推移 >

2014年2月～2015年1月の各月分配金支払い後



・直近12カ月分を記載しています。



## アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(トルコリラコース)

### < 基準価額の推移 >

2011年10月27日(設定日)～2015年1月末

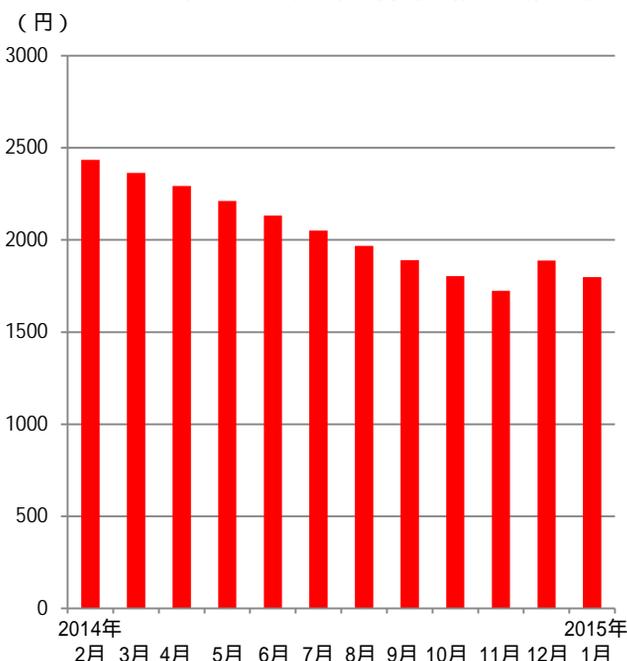


・基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと  
して計算しています。基準価額は信託報酬控除後です。

・上記グラフは過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

### < 分配対象額(1万口当たり、分配金支払い後)の推移 >

2014年3月～2015年1月の各月分配金支払い後

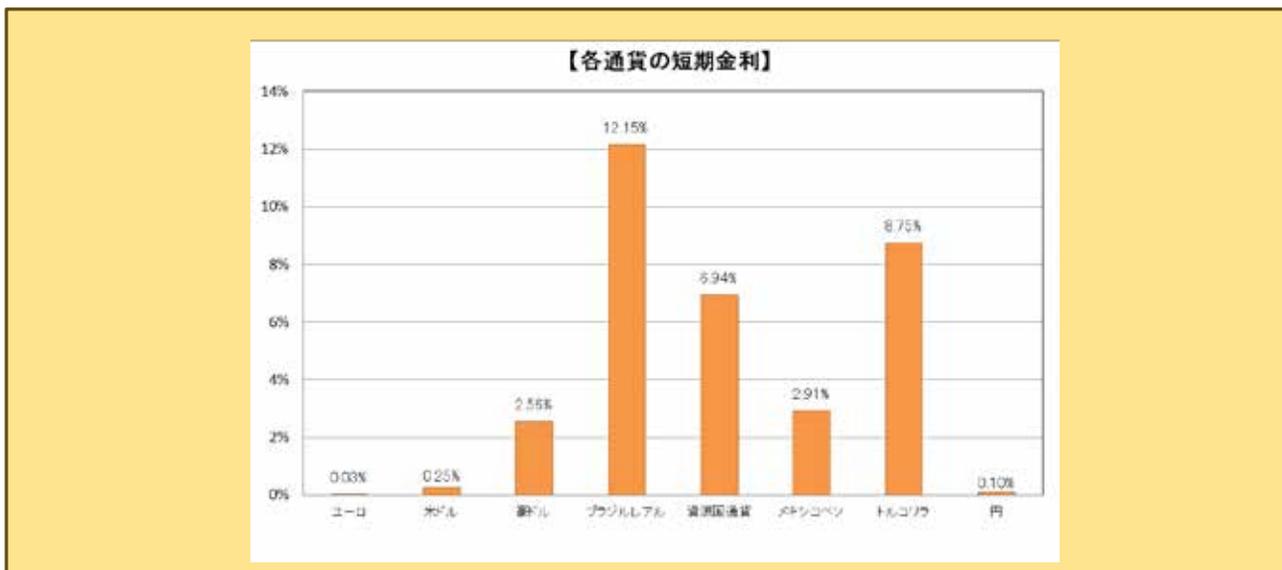


・直近12カ月分を記載しています。

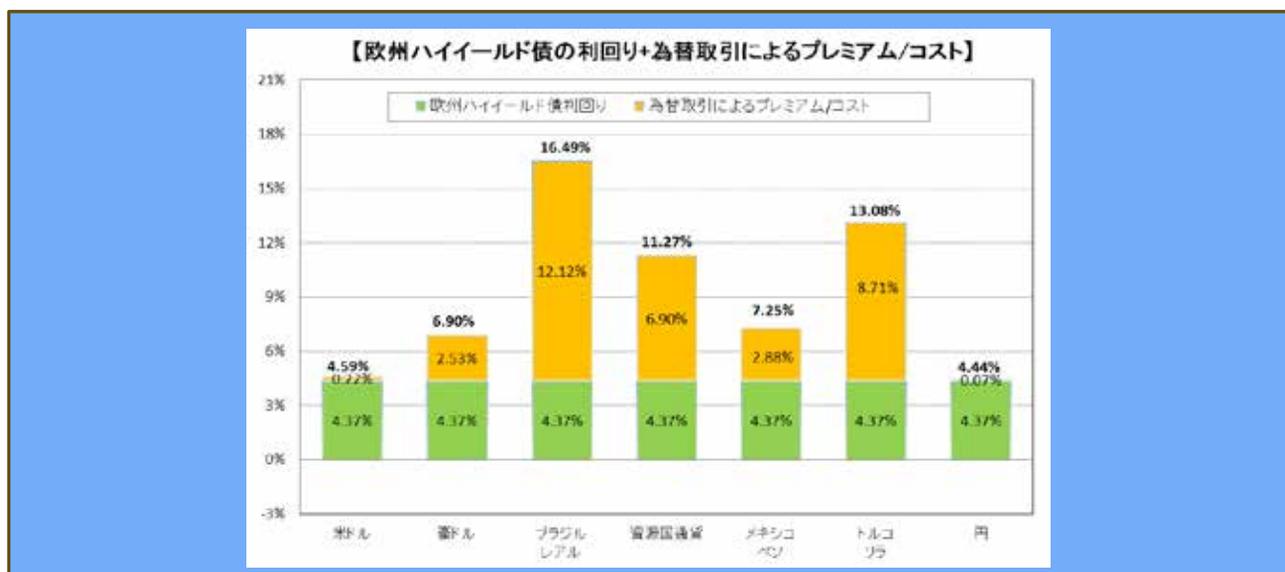
P3上段に掲載した、「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド: 分配金のイメージ図」の配当等収益である、欧州ハイイールド債券の利回りならびに為替取引によるプレミアム(コスト)は以下のようになっています。いずれも2015年1月末現在の数値となります。

## 欧州ハイイールド債券(ファンド\*)の最終利回り 4.37%

\*アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンドの主要投資対象であるストラクチャ - 欧州ハイ・イールド・ボンド



欧州ハイイールド債券の利回りと為替取引によるプレミアム(コスト)を合算した値(2015年1月末現在)は以下のようになります。



\*ユーロより金利が低い通貨で為替取引を行う場合は、コスト(金利差相当分の費用)が生じますので、基準価額の下落要因となります。

\*為替取引によるプレミアム/コストは、おおよそ取引対象通貨の短期金利からユーロの短期金利を差引いた値で簡便的に計算しています。

出所: ブルームバーグのデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

\*小数点以下、四捨五入の関係で各取引対象通貨の短期金利と、為替取引によるプレミアム/コストとユーロの短期金利合計が一致しない場合があります。各通貨の短期金利ユーロ: 3ヵ月LIBOR、ブラジルレアル: 3ヵ月CD(譲渡性預金証書)レート、豪ドル: 3ヵ月BBSW(豪州銀行間取引金利)、南アフリカランド: ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリド・レート3ヵ月、トルコリラ: 3ヵ月TRLIBOR、円: 3ヵ月LIBOR、米ドル: 3ヵ月LIBOR、メキシコペソ: T-BILL3ヵ月より算出。

•上記金利は、先物為替レート等を概算する際の目安として参照する金利であり、実際に行う為替取引を行う先物為替等の市場値から逆算される金利とは異なる場合があります。したがって上記の2通貨間の金利差から計算される為替取引によるプレミアム/コスト相当値が、実際のファンドで生じる為替取引によるプレミアム/コストと同一になるとは限りません。•将来の為替取引によるプレミアム/コストの数値を保証するものではありません。•ブラジルレアルについては、実際に行う為替取引はNDF取引等によって行いますので、当該NDF取引等により逆算されるブラジルレアル金利と上記金利は異なります。

Q2 分配金を引き下げたのは運用成績が悪いからですか？

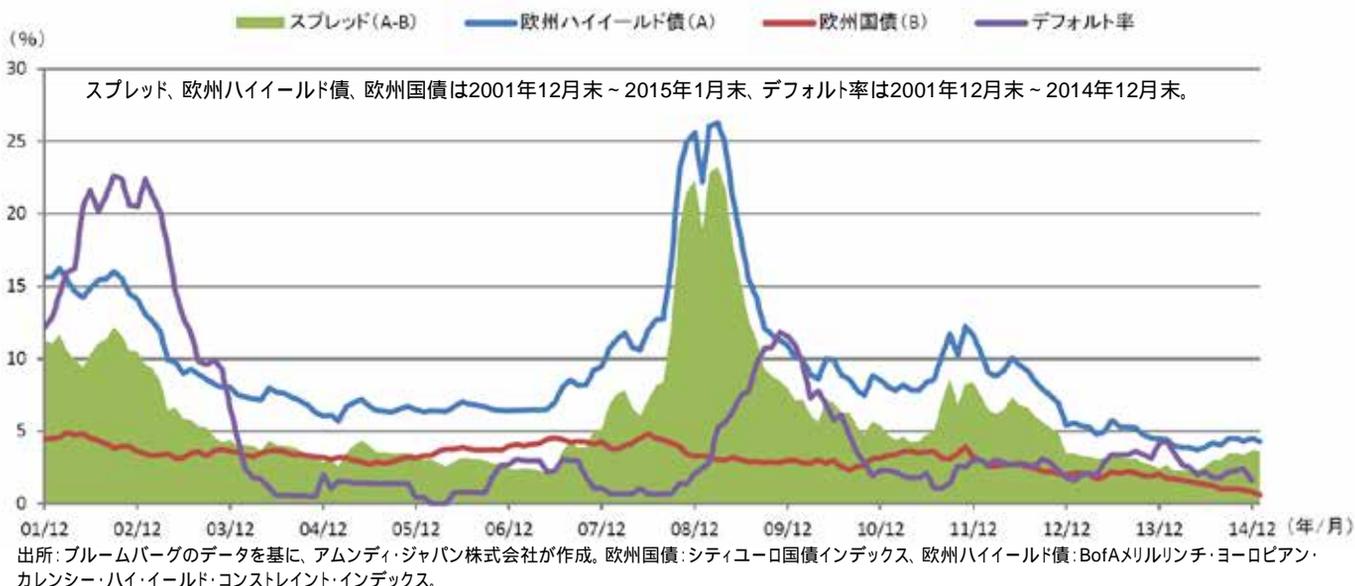
A2 分配金を引き下げたのは運用成績が悪いからではありません。事実、欧州ハイイールド債券自体の値動きは堅調です。Q1のとおり、基準価額の水準や分配対象額、市況動向などの状況を勘案した結果、分配金を引き下げました。

分配金額の変更は運用成績と連動しているわけではありません。投資対象資産である欧州ハイイールド債券自体の値動きは堅調です。

欧州ハイイールド債券価格と利回りの推移 (2011年1月31日～2015年1月末)



(ご参考) 欧州ハイイールド債スプレッド(国債との比較)およびデフォルト率



また、運用成績を考える際には基準価額の推移だけでなく、受け取った分配金を考慮に入れるトータルリターン（総合的な収益率）を見る必要があります。

たとえば約1年前の2014年1月31日に当ファンドの豪ドルコースを購入した場合、購入価額（基準価額）は10,750円です。2015年1月末時点の基準価額は9,075円ですから基準価額だけを見ると下落しています。しかしこの期間に2,760円（230円×12カ月、1万口当たり税引前）の分配金を受け取っているため、総合的な評価額は、9,075円 + 2,760円 = 11,835円となり、1年間のトータルリターンは + 10.1% となります。

<トータルリターン計算方法> 税金および購入時手数料は考慮していません。

お客様の実質的な収益率（トータルリターン） = （評価時点の基準価額 + 受け取った分配金合計額） ÷ 購入時の基準価額

上記をあてはめて考えると、 $(9,075円 + 2,760円) \div 10,750円 = 1.10093$  10.1%増えたこととなります。

～保有期間別トータルリターン（2015年1月末現在）～

### アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）

購入時期 （保有期間）	購入時の基準価額	基準価額 （2015年1月末）	受取分配金 合計額	基準価額 + 受取分配金合計	トータルリターン （お客様の実質的な収益率）
2011年10月27日 （設定来）	10,000 円	9,075 円	6,490 円	15,565 円	55.7%
2012年1月末 （3年間）	10,263 円	9,075 円	6,410 円	15,485 円	50.9%
2013年1月末 （2年間）	12,624 円	9,075 円	5,190 円	14,265 円	13.0%
2014年1月末 （1年間）	10,750 円	9,075 円	2,760 円	11,835 円	10.1%

### アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）

購入時期 （保有期間）	購入時の基準価額	基準価額 （2015年1月末）	受取分配金 合計額	基準価額 + 受取分配金合計	トータルリターン （お客様の実質的な収益率）
2011年1月31日 （設定来）	10,000 円	5,556 円	6,400 円	11,956 円	19.6%
2012年1月末 （3年間）	7,025 円	5,556 円	4,620 円	10,176 円	44.9%
2013年1月末 （2年間）	6,801 円	5,556 円	2,880 円	8,436 円	24.0%
2014年1月末 （1年間）	5,757 円	5,556 円	1,440 円	6,996 円	21.5%

### アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）

購入時期 （保有期間）	購入時の基準価額	基準価額 （2015年1月末）	受取分配金 合計額	基準価額 + 受取分配金合計	トータルリターン （お客様の実質的な収益率）
2011年1月31日 （設定来）	10,000 円	6,847 円	5,680 円	12,527 円	25.3%
2012年1月末 （3年間）	7,594 円	6,847 円	4,340 円	11,187 円	47.3%
2013年1月末 （2年間）	7,973 円	6,847 円	2,760 円	9,607 円	20.5%
2014年1月末 （1年間）	6,971 円	6,847 円	1,380 円	8,227 円	18.0%

★ アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(トルコリラコース)

購入時期 (保有期間)	購入時の基準価額	基準価額 (2015年1月末)	受取分配金 合計額	基準価額+ 受取分配金合計	トータルリターン (お客様の実質的な収益率)
2011年10月27日 (設定来)	10,000 円	8,818 円	7,450 円	16,268 円	62.7%
2012年1月末 (3年間)	9,965 円	8,818 円	7,330 円	16,148 円	62.0%
2013年1月末 (2年間)	12,211 円	8,818 円	5,670 円	14,488 円	18.6%
2014年1月末 (1年間)	9,823 円	8,818 円	3,000 円	11,818 円	20.3%

Q3 米ドルコースの分配金を引き上げたのはなぜですか？

A3 基準価額の上昇や分配対象額の増加、市況動向などを勘案した結果、分配余力が高まっていると判断し、分配金を引き上げることといたしました。

当資料3ページに記載しましたとおり、米ドルコースは2014年1月14日の設定来、基準価額、分配対象額ともに上昇傾向にあります。これらを踏まえ、直近のトータルリターン水準に対して分配余力が高まっていることから、分配金を引き上げることとしました。

～米ドルコースの分配金支払い後の基準価額および分配対象額～

	2014年4月8日	2014年5月8日	2014年6月9日	2014年7月8日	2014年8月8日
分配金支払い後 基準価額	10,094円	9,983円	10,113円	10,023円	9,869円
分配金支払い後 分配対象額	164円	150円	210円	196円	182円
	2014年9月8日	2014年10月8日	2014年11月10日	2014年12月8日	2015年1月8日
分配金支払い後 基準価額	10,232円	10,454円	11,069円	11,714円	11,419円
分配金支払い後 分配対象額	344円	531円	1,149円	1,772円	1,757円

また、米ドルコースの1年間のトータルリターンは以下のようになります。

購入時期 (保有期間)	購入時の基準価額	基準価額 (2015年1月末)	受取分配金 合計額	基準価額+ 受取分配金合計	トータルリターン (お客様の実質的な収益率)
2014年1月末 (1年間)	9,853 円	11,432 円	400 円	11,832 円	20.1%

Q4 今後も分配金の見直しが行われることはありますか？

A4 Q1のとおり基準価額の水準や分配対象額の状況を勘案した上で決定するため、現時点では確定しておりません。マーケット動向を注視して決定します。

当ファンドは世界のマクロ環境等により基準価額が大きく変動することが考えられます。そのため、将来の分配金額が確定しているものではありません。毎月の決算日に決定します。

Q5 今後の市場見通しを教えてください。

A5 当ファンドのエンジンである欧州ハイイールド債券は、欧州の金融緩和を下支えに、今後も堅調に推移していくことを想定しています。為替に関しては通貨によってばらつきがあります。以下、ご参照ください。

欧州ハイイールド債券の価格につきましては、2015年は2014年に続き底堅い展開になると予想しており、市場の期待収益率は4.5%程度(ユーロベース、アムンディパリの見解)になると見えています。主なサポート要因は以下の通りです。

企業は設備投資やM&Aに依然慎重で、財務レバレッジの大幅な上昇は見込み難い。  
企業の債務返済期限は2018-2019年に集中しており、デフォルトリスクが今すぐ顕在化する可能性は低い。  
ECB(欧州中銀)が緩和的な金融政策を継続することは、債券全般にとって下支え要因となる。  
2015年前半にも開始されると見られるECBによる債券買入れプログラムの対象に社債も含まれると見られる。  
ほぼゼロに近付いている国債(ドイツ)と比べたときの利回りの絶対水準やスプレッドが相当魅力的である。  
アメリカと異なり欧州ハイイールド債券インデックスにはエネルギー関連の銘柄が殆ど含まれていない。

ただし、上記の要因が予想に反した場合、あるいは以下のリスク要因が顕在化した場合には、異なる市場の展開が予想されます。

ギリシャの混乱等に端を発するソブリン危機の再燃  
地政学リスク(特にロシア、ウクライナ情勢)

アムンディ・ジャパンの当面の為替の見通しは以下の通りです。

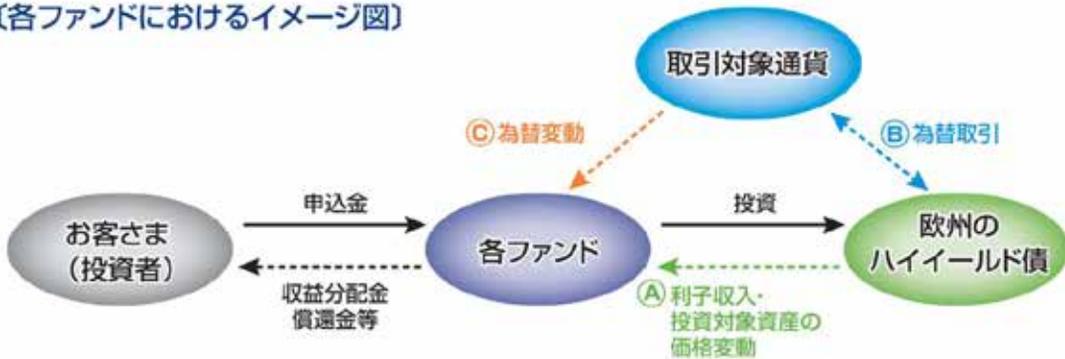
主要通貨の見通し（2015年1月末時点）

通貨	現況と見通し
 ユーロ	<p>昨年末あたりからの原油価格の急過ぎる下落や混迷するギリシャ情勢などから、リスクオフの動きの強まり、円の買い戻しが進みました。また原油安や内需後退による物価下落圧力の強まりが欧州の金利を押し下げ、ユーロ安が加速しました。もっとも、ECBの量的金融緩和が発動されたため、ユーロ圏の信用不安が助長されるような事態は回避されています。ロシア問題などの地政学リスクの後退や景気回復の兆しが見えてくればユーロは持ち直しに向かいそうです。</p>
 米ドル	<p>日本の金融緩和策の拡大で、昨年はドル高・円安が進みましたが、足元では円高方向への揺り戻しの動きが見られます。原油価格急落は物価上昇圧力を弱めることで米国金利低下を招き、また産油国や一部の新興国の先行き不透明感を増幅し、リスクオフの円高も誘発されやすい情勢となっています。しかし、今回のドル高・円安は、米国の利上げ観測と米金利上昇期待に起因する「ドル高」です。よって中期的には、日米金利差拡大によるドル高・円安が進むとみています。</p>
 豪ドル	<p>原油価格急落に連れ安状態となっている商品市況や中国経済の先行き不透明感が豪ドルを押し下げています。当面は軟調に推移する商品市況の豪州経済への悪影響が懸念され、豪ドルは上値の重い展開が見込まれます。しかし、停滞気味の景気を受けて長期金利が過去最低となっていますが、2%台の短期金利は先進国の中では依然として高く、投資資金を引き付けると見込まれ、下値は限定されそうです。</p>
 ブラジルレアル	<p>レアルは資源国通貨全般の弱い動きに連れ安となりましたが、ブラジルは原油の純輸入国であり、原油価格急落の影響は限定的です。一方、政策金利は1月に12.25%まで引き上げられており、高金利がレアルの下支えとなりそうです。また、商品市況や国内景気が弱含む中では対ドルのレアルの上値は重そうですが、中長期的なドル高・円安の流れから対円では底堅く推移しそうです。</p>
 南アフリカランド	<p>物価は高止まりながら、GDP成長率が1%台で推移するという経済情勢を受けて、1月に政策金利は過去最低の5%から5.75%へ引き上げられました。しかし、弱い商品市況を受けて、他の資源国通貨と同様に上値は重そうです。ただし、金価格は原油や農産品などに比べると底堅く推移しており、高金利通貨であることも下支え要因となり、当面、もみあい状況が続くと予想されます。</p>
 メキシコペソ	<p>産油国のメキシコは、原油価格急落の影響などからペソは軟調気味に推移しています。景気はやや減速気味ですが、信用度は安定しており、1月も過去最低の3%で据え置かれた政策金利も当面、維持されそうです。原油価格急落の財政への影響も心配されますがメキシコは潤沢な外貨準備を有しています。もっとも原油価格が反騰に向かうまでは、ペソは対円でほぼ横ばいの展開になると予想されます。</p>
 トルコリラ	<p>ギリシャやロシアなどトルコの周辺諸国の景気減速や地政学的リスクの高まりなどは、トルコの不安材料です。景気が伸び悩む中で、原油安を受けて消費者物価が12月は前年同月比 +8.17%と11月の同 +9.15%から鈍化したことから、政策金利も1月に8.25%から7.75%へ引き下げられました。それでもトルコの名目金利は高水準ですが、実質金利は低く、さらなる利下げとなれば、リラ安が進みそうです。</p>

〔通貨選択型投資信託の収益のイメージ〕

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などの投資対象資産への投資に加えて、為替取引の対象通貨を選択できるように設計された投資信託です。なお、各ファンドの実質的な投資対象資産は欧州のハイールド債です。

〔各ファンドにおけるイメージ図〕



\* 取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

\* 各ファンドは、実際の運用においてはファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。

\* ユーロコースでは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。円コースでは、対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。

- 各ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



	(A) 欧州のハイールド債	(B) 為替取引	(C) 為替変動
収益を得られるケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>金利の低下</li> <li>発行体の信用状況の改善</li> </ul> <p>債券価格の上昇</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引対象通貨の短期金利 &gt; ユーロの短期金利</li> </ul> <p>プレミアム(金利差相当分の収益)の発生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円に対して取引対象通貨高</li> <li>円に対してユーロ高 (ユーロコースの場合)</li> </ul> <p>為替差益の発生</p>
損失やコストが発生するケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>金利の上昇</li> <li>発行体の信用状況の悪化</li> </ul> <p>債券価格の下落</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引対象通貨の短期金利 &lt; ユーロの短期金利</li> </ul> <p>コスト(金利差相当分の費用)の発生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円に対して取引対象通貨安</li> <li>円に対してユーロ安 (ユーロコースの場合)</li> </ul> <p>為替差損の発生</p>

\*1 ユーロコースでは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

\*2 円コースでは、原則として対円での為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、主に円に対するユーロの為替変動の影響を受ける可能性があります。

\* 一部の取引対象通貨については、NDF取引を用いて為替取引を行います。NDF取引による価格は需給や当該通貨に対する期待等により、金利差から想定される為替取引の価格と大きく乖離し、当該金利差から想定される期待収益性と運用成果が大きく異なる場合があります。

\* 市況動向等によっては、上記の通りにならない場合があります。

〔収益分配金に関する留意事項〕

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

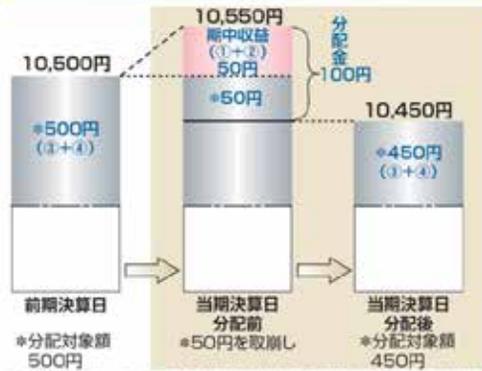
投資信託で分配金が支払われるイメージ



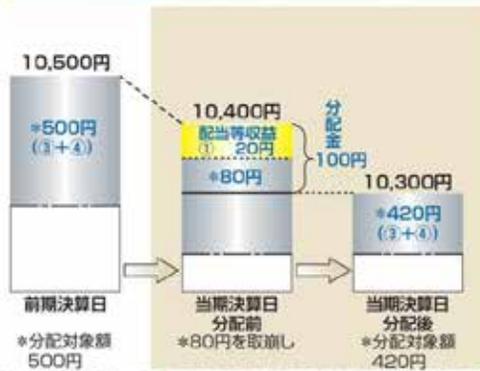
●分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりか小さいかかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

## ファンドの目的

各ファンド(8つのコースを総称して「各ファンド」といいます)は、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

## ファンドの特色

- ① 各ファンドは、欧州のハイイールド債(高利回り債/投機的格付債)を実質的な主要投資対象とします。
  - ・各ファンドは、欧州のハイイールド債を主要投資対象とする円建の外国籍投資信託「ストラクチャラ-欧州ハイ・イールド・ボンド」と、円建の国内籍投資信託「CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式<sup>※</sup>で運用します。
  - ※ ファンド・オブ・ファンズとは複数の投資信託証券に投資する投資信託のことをいいます。
  - ・欧州のハイイールド債の運用は、アムンディが行います。
- ② 「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド」は、投資する外国籍投資信託における為替取引が異なる8つのコースから構成されています。
  - ・米ドルコース、豪ドルコース、ブラジルリアルコース、資源国通貨コース<sup>※</sup>、メキシコペソコース、トルコリラコースでは、ユーロ売り/取引対象通貨買いの為替取引を行います。
  - ・円コースでは為替変動リスクの低減を目的として、ユーロ売り/円買いの為替取引(対円で「為替ヘッジ」といいます)を行います。
  - ・ユーロコースでは対円で為替ヘッジを行いません。
  - ※ 資源国通貨とは、原則として、代表的な資源国であるブラジル、オーストラリアおよび南アフリカの3か国の通貨(ブラジルリアル、豪ドルおよび南アフリカランド)を均等に配分したものをいいます。
- ③ 各ファンドは、毎決算時(原則として毎月8日。休業日の場合は翌営業日とします)に、原則として収益分配方針に基づき収益分配を行います。
  - ・分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。
  - ・分配金額は、委託会社が基準価額水準および市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあり得ます。したがって、**将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。**
  - ・留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。◆

## 投資リスク

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として債券など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります)に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではありません。**各ファンドの基準価額の下落により、損失を被り投資元本を割込むことがあります。各ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

各ファンドにおける基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、為替変動リスク、流動性リスク、信用リスク等が挙げられます。なお、基準価額の変動要因(投資リスク)は、これらに限定されるものではありません。また、その他の留意点として、各ファンドの繰上償還等があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご参照ください。

### ◀当資料のお取扱いについてのご注意▶

当資料は、「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド」の商品内容説明資料としてアムンディ・ジャパン株式会社を作成した資料です。当資料に記載したコメントは、将来を保証するものではなく、資料作成時点における当社の見解や予想であり、将来の経済・市場環境、政治情勢等の変化により予告なく変更することがあります。当資料に記載したデータは資料作成時点のものであり将来の傾向、数値等を示唆するものではありません。購入のお申込みを行う場合には、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)を必ずお受取りいただき、商品内容、リスク等の詳細をご確認の上、ご自身のご判断でお申込みください。

### 【投資信託ご購入時の注意点】

投資信託は、その商品の性格から次の特徴をご理解のうえご購入くださいますようお願い申し上げます。

- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象とはなりません。
- 投資信託は保険契約ではなく、保険契約者保護機構の保護の対象とはなりません。
- 銀行を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の設定・運用は委託会社が行います(銀行、証券会社は販売の窓口となります)。
- 投資信託は値動きのある証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります)に投資するため、運用実績は市場環境等によって変動します。したがって、投資元本および分配金が保証された商品ではありません。
- 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- 投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額とします。
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金申込受付不可日	ファンドの休業日(東京証券取引所の休業日、ユーロネクストの休業日、フランスの祝休日、ルクセンブルクの銀行休業日のいずれかに該当する場合、または12月24日である場合)には、受け付けません。
申込締切時間	詳しくは販売会社にお問合せください。
換金制限	委託会社の判断により、一定の金額を超える換金申込には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込受付を取消すことができます。
信託期間	「ユーロコース」、「ブラジルリアルコース」、「資源国通貨コース」、「円コース」 平成23年1月31日(設定日)から平成33年4月8日までとします。 「豪ドルコース」、「トルコリラコース」 平成23年10月27日(設定日)から平成33年4月8日までとします。 「米ドルコース」、「メキシコペソコース」 平成26年1月14日(設定日)から平成33年4月8日までとします。
決算日	年12回決算、原則毎月8日です。休業日の場合は翌営業日とします。
収益分配	年12回。原則として毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。 販売会社によっては分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除および益金不算入制度は適用されません。
スイッチング	販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行う場合があります。スイッチングの際には、購入時および換金時と同様に、費用・税金がかかる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。有価証券届出書作成日現在の料率上限は <b>3.78%(税抜3.5%)</b> です。詳しくは販売会社にお問合せください。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.1%</b> を乗じて得た金額とします。

### 投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	実質的な負担の上限:純資産総額に対して <b>年率1.7608%<sup>*</sup>(税込)</b> ※各ファンドの信託報酬年率1.0908%(税込)に投資対象とする投資信託証券のうち信託報酬が最大のもの(年率0.67%)を加算しております。各ファンドの実際の投資信託証券の組入状況等によっては、実質的な信託報酬率は変動します。 ◆上記の運用管理費用(信託報酬)は有価証券届出書作成日現在のものです。
その他の費用・手数料	投資信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用、郵送費用、公告費用、格付費用、受益権の管理事務に関連する費用等およびこれらの諸費用にかかる消費税等に相当する金額を含みます)および受託会社の立替えた立替金の利息は、投資者の負担とし、投資信託財産中から支弁することができます。信託事務の処理等に要する諸費用の額は委託会社が定める期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に応じて計算します。また、有価証券売買時の売買委託手数料、組入資産の保管費用などの諸費用がかかります。※ <b>その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。</b>

◆各ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

## 委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	アムンディ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第350号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	株式会社 リソナ銀行 (再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
販売会社	販売会社については巻末をご参照ください。
ファンドに関する照会先	委託会社の名称:アムンディ・ジャパン株式会社 お客様サポートライン:0120-202-900(フリーダイヤル) 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで ホームページアドレス: <a href="http://www.amundi.co.jp">http://www.amundi.co.jp</a>

販売会社一覧(業態別・五十音順)

金融商品取引業者等		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社 あおぞら銀行(※1)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第8号	○			○	
株式会社 近畿大阪銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○				
株式会社 埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○			○	
株式会社 新生銀行(※2)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○			○	
株式会社 りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○			○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○				
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○			○	○
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○				
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○		○	○	○
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第21号	○		○		
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○				
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○				

(※1) ユーロコース、円コースのお取扱いとなります。

(※2) ユーロコース、豪ドルコース、ブラジルリアルコース、メキシコペソコース、トルコリラコースのお取扱いとなります。